

風と水のみちビレッジ

風が吹き、水が流れるように、人の暮らしもまた、まちの中をゆるやかに行き交います。この計画では、**住まいを単独で考えるのではなく、地域と人、暮らしと自然をつなぐ「みち」の一部として捉えます。**住棟の間を縫うみちや、水と緑にひらかれた場所が、人の出会いや交流を生み、**暮らしの中に自然と人の気配が感じられる環境をつくります。**風と水が通り、人が行き交うことで、**日々の暮らしの中に地域とのつながりが育まれます。**住む人と訪れる人、それぞれの過ごし方が重なり合うことで、さらに新たな地域のつながりが生まれます。

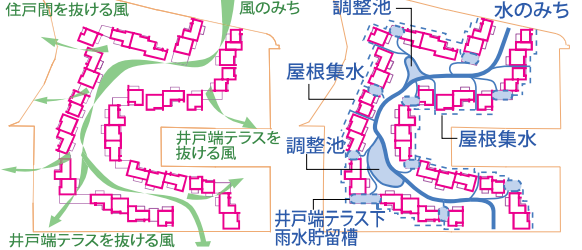
地域をつなぐ「風と水のみち」

敷地内を緩やかにつなぎ、**風や水、人の動きを受け止める「風と水のみち」**を計画します。このみちを通して、栗の駅や歴史民俗資料館、役場へとつながり、**地域の人や訪れる人が行き交う動線をつくります。**栗の駅側には「**栗のみち広場**」をひらき、訪れる人を迎え入れるにぎわいのある顔をつくります。資料館側には広場を設け、施設と一体となった地域利用を促します。敷地外周には緑地や駐車場、「暮らしのみち」を配置し、**周辺住宅との適度な距離を保ちながら、地域とのつながりと暮らしの安心を両立**します。



風と水のみちに沿った安心と快適をつくる住棟配置

敷地中央に南北をつなぐ「**風と水のみち**」を通します。地域を通り抜ける風や雨水の動きを敷地内に取り込み、風は住棟の間や床下を通り抜けることで、**風通しのよい住環境**をつくります。水は調整池として雨水を蓄えながら、普段は住む人や近隣の人が利用できる**親水空間として機能**します。**風と水が敷地をめくり、人の暮らしとつながる環境をつくります。**



暮らしの距離を保ちながら、交流を育む住まいの配置
「栗のみち広場」に沿って**住棟を雁行配置**とし、住戸同士が正対しない適度な距離をつくることで、プライバシーを確保します。住戸間には「**井戸端テラス**」を配置し、**囲われた広場に抜け**をつくることで、住民同士の交流を生み出します。また、「**暮らしのみち**」に面した縁側では、日々の暮らしが外へゆるやかに滲み出し、**人と人とのつながりを育みます。**



暮らしをつなぐ「井戸端テラス」

住棟と住棟の間には、「**井戸端テラス**」と呼ぶ**コミュニティエリア**を設けます。広場とは異なり、隣近所の人々が気軽に集まり、日常的な交流が生まれる場です。「**暮らしのみち**」と「**栗のみち広場**」の双方に面し、二つの場所をつなぐ**通り抜けの動線**となることで、**地域のコミュニティがゆるやかに広がっていきます。**また、**風や水が通り抜ける、みちとして、心地よく過ごせる環境をつくります。**



「暮らしの縁側」と「憩いの縁側」

主に**生活の動線として使う「暮らしのみち」側と、公園のような「栗のみち広場」側の両方に縁側を設けます。**「暮らしのみち」側の縁側は、隣近所との日常のコミュニケーションや、食事の下ごしらえなどに使われます。「栗のみち広場」側は、景色や趣味を楽しむ憩いの場となります。**それぞれ異なる性格の半外部空間を設けることで、暮らしをつなぐ「みち」のような場所をつくります。**



県道相良人古線

配置図・1階平面図 S=1/600

概算工事費：924 百万円